

奄美の風だよ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

VOL. 26

(秋号：7)

2006. 10. 10

A N C: News Letter



「サキシマフヨウ」 H18年9月撮影

吹く風もさわやかに感じられるようになり、日増しに秋の気配が濃くなってきました。野でも里でも色とりどりの草花が咲き始めています。林道を通って見ますと、紅紫色のハギや薄紫色のサイヨウシャジンが咲いて、緑の野山を彩っています。里ではまだつぼみのサキシマフヨウも、湯湾岳近くでは今が旬とばかりに満開に咲いていました。秋ならではの光景でした。

野鳥たちは渡りの季節となり、夏鳥が去って冬鳥が観察されるようになりました。南方へ群れで渡っていくアカハラダカが、今年は特に多く観察されたと聞いています。集落近くではキセキレイが飛回り、上空ではサシバが鳴きながら旋回しています。先月中旬にはセンター前の公園にセイタカシギがやって来ました。餌を探して芝生の上を歩きまわっている姿が数日観察されたのですが、その後は何処かへ飛んでいってしまったようです。

暑さも和らいだこの好季節に秋路を散策されてみてはいかがでしょうか。

お知らせ

第7回やせいの生きもの絵画展作品募集について

奄美の豊かな自然や野生生物に関心をもってもらおうと始めた「やせいの生き物絵画展」も今年で7回目となりました。今回は奄美の島々を飛んでいる生きものを描いてもらおうと、テーマを「奄美の飛ぶ生きもの」としました。

つきましては、下記の要項で作品を募集いたしますので、ご応募いただけますようお願いいたします。

【募集内容】

テーマ：「奄美の飛ぶ生きもの」

用紙サイズ：画用紙 B4サイズ

パステル、水彩絵の具、油絵等
種類は問いません。

応募資格：小・中学生

（小学校3年生までを低学年とする。）

入選者発表：平成18年11月下旬予定

（本人へ直接通知します。）

締め切り：平成18年11月20日（月）必着

【賞】

いきもの大賞：低学年の部1名、高学年の部1名

あざやか賞：低学年の部2名、高学年の部2名

ユニーク賞：低学年の部2名、高学年の部2名

審査員特別賞：低学年・高学年を問わず2名

* 応募者には参加賞を差し上げます。

【表彰式】

平成18年12月2日（土）午後1:30から

※以上、入選者には賞状と副賞を贈呈します。

応募作品は展示終了後郵送にてお返しします。

【絵画展開催予定】平成18年12月2日（土）～平成19年1月31日（水）

【送り先】

〒894-3104

大島郡大和村思勝字腰ノ畑551番

奄美野生生物保護センター・奄美自然体験活動推進協議会宛

TEL(0997)-55-8620

FAX(0997)-55-8621



協議会活動報告



クラフト教室：「海辺で藍染めをしよう」

場 所：吉川工房（瀬戸内町・嘉徳）

日 時：平成18年7月27日（木）10:00～12:00

講 師：吉川好弘・吉川千代

夏のふれあい行事1回目は、クラフト教室「海辺で藍染めをしよう」を、7月27日に瀬戸内町嘉徳の吉川工房で行いました。

最初に吉川さんのお話を聞いてから始めました。吉川さんは藍染めを始めて今年で22年になり、嘉徳で工房を始めた理由を「水が綺麗だから」と話されました。

作業は次の順序で行っていききました。まず、ハンカチをビニール紐で結んでいくのですが、いろいろな模様の結び方を奥さんの千代さんに教わりました。

結び始めていくと簡単に結んだ人がある一方で、何ヶ所も複雑に結んだ人もおり人それぞれでした。結び方が終わると染めの作業場へ移ります。

染まりやすくするためにハンカチを水にさらして絞り、長い紐に結んでリュウキュウアイの液の中に入れます。藍液に浸しておくのは3分間で、液から引き上げて3分間酸化（かわかす）させます。この工程を5回繰り返すと染め上がりです。染めの作業が終わり紐をといていくと、結んだ部分は染まらずに残っており、藍地に白の絞り模様が出来上がりました。藍液を水で洗い流して乾かせると完成です。みんなオリジナルの作品に満足そうでした。

親子3人で参加された方は「初めてでしたが、いろいろな模様が出来て楽しかった」と話していました。

夏休みのせいでしょうか、他にもお客さんがいましたし、私達の教室の後にも予約されたお客さんが来られると話されていました。

クラフト教室の様子



自然観察会「クロボシセセリを探そう」

日 時：平成18年8月4日（金）10:00～12:00

場 所：奄美パーク（奄美市笠利町）

講 師：金井賢一（大島高校教諭）



夏のふれあい行事2回目は、8月4日（金）に奄美パークの広場で自然観察会「クロボシセセリを探そう」を行いました。

まず、レクチャールームでクロボシセセリについて金井先生の説明を聞いてから公園へ出て観察しました。

クロボシセセリはもともと日本にいたチョウではなく、街路樹が輸入された時に侵入してきたようだと話されました。1973年に石垣島で初めて確認されて以来、1984年には沖永良部島、1985年には徳之島、1999年に奄美大島名瀬のらんかん山で始めて確認されたそうです。幼虫の食草はヤシ類とのことで、ヤシの葉に卵を産み、巣は葉を折りたたんだような状態で作り、幼虫の間に巣を3～4回作り替えると説明されました。生きている卵は筋があってピンク色、羽化して幼虫が出ていった後は白くなっているそうです。

勉強会が終わると親子さん達は4班に分かれ、探す場所も班ごとに別々の所で30分間探すことになりました。卵や幼虫を見つけようと親子で一緒になってヤシの葉を一枚ずつ見ていきました。やがて「見つけた！」との声に、みんな近寄って興味津々といった様子で見っていました。とても小さかったのですが、虫眼鏡で見ると、ピンク色した卵がはっきりとわかりました。しばらくして巣も見つけることができました。観察後にレクチャールームへ戻って、地図に卵や巣を見つけた場所とヤシの名前を記入しました。参加された方は「これからはヤシを気をつけて見ようと思う。見つけることができるかも知れない。」と話していました。

クロボシセセリを知らなかった人がほとんどでしたが、興味をもたれたようです。



クロボシセセリの卵

観察会の様子



自然観察会「夏の夜のホタル観察会」

日 時：平成18年8月25日（金）18:30～21:00

場 所：奄美自然観察の森（龍郷町）

講 師：宇都宮英之（奄美自然観察の森指導員）

夏のふれあい行事の最後は、8月25日（金）に「夏の夜のホタル観察会」を、龍郷町の奄美自然観察の森で行いました。

管理棟で15分間ほど勉強をしてから散策に出掛けました。宇都宮さんは「光る生き物」の話の他に、森の中では「藪に入らない。昆虫を捕まえたり花を折ったりしない。」などのルールを守って欲しいと話されました。

やがて時間になり外へ出てみると、すでに暗くなっていて、あちらこちらから「ピカッ、ピカッ」と光り始めました。「あっ、ホタルだ！こっちでも飛んでいる！」など子供たちは大喜びです。ピークは7月初旬～中旬で8月下旬頃は少ないと言われていたのですが、子供達がかっかりするのではと思っていたのですが、この時期にしては多く見ることができました。しばらくして「幼虫を探してみしましょう」と言われたので、灯りを消して地面で幼虫が光るのを待ちました。「あっ、いた、いた」と声が飛び交っていました。

さらに歩いて行くと展望台の階段の支柱で羽化中のセミを見つけました。子供たちはじっとして動きません。宇都宮さんが「羽化は朝までかかるよ」との声によりやくその場を離れ、星空を見上げていました。

展望台からの帰り道で梅雨の頃が旬と言われるシイノトモシビダケ（光るキノコ）も観察することができました。初めて見る光キノコに「見えた、見えた」とみんな驚いていました。

参加者は「楽しかった」「ホタル、ホタルの幼虫、シイノトモシビダケ、セミの孵化、星などが観察できて感動しました」と話されていました。

ホタルの観察会は人気があり、何度行っても多くの親子さんが参加されます。



キイロスジボタル

観察会の様子



環境・奄美野生生物
保護センターと奄美
自然体験活動協会、会
長・由武光久大相村
長、主催の「奄美自然
ふれあい行事」が二十
七日からスタートし、
た。第一回はクラフト
教室「海辺で藍（あ
い）染めをして」。

瀬内町霧島の「よじ
か工房」で行われ、
親子など十二人が参
加。リュウキュウアイ
の藍染めを通じ、奄美
の植物や自然の「はら
し」を再確認した。

藍染めの方法①の染
め柄（ワ）の布を
を縛る②の布を水
に（け）ませる③布
を三分間藍に染め
（漬）ける。④三分間酸
化させる。⑤干す。工
程を五回繰り返す⑥
水でよく乾燥させる
ると、地道な作業だ
が子どもでも手軽に
楽しめる。

リュウキュウアイで藍染め体験

「奄美自然ふれあい行事」 親子参加 夏休みの思い出づくり

川田真由美さん（左）は、真奈さん②、和
紀くん③と、夏休み
の思い出づくりに参
加。



布が青染まつてい
く。過剰がれいゝ感動
えれば、と語った。
同行の今後の開催
は次の通り。

を連べで、喜んでち
えれば、と語った。
同行の今後の開催
は次の通り。

八月四日午前10時
から正午まで「クロ
セツを染る」と「奄
美市菊町興奄六」
で。

合わせは町セター
（☎55-8620）ま
申し込み、問い
合わせは町セター
（☎55-8620）ま
で。

以上十人、保護
者同好で
同好者以外の参
加者は無料。申し
込みは先着順で定
員に外次第、締
め切。

初めての染染めを
楽しむ親子

夏の夜のボウル
観祭会・龍郷町
奄美自然観察の
森・宿・小生

タリ、定員・小中生
二十人、八月九日朝
十時から正午まで、
で海遊のりまこ。

空和町あまる
寺山・宿・小生
寺山・宿・小生
寺山・宿・小生



金井堅一教授がクロボシセセリの卵や幼虫を児童に説明した

[illegible][illegible]

★奄美野生生物保護センタースタッフによる 野生の生きもの情報★

●●●アマミノクロウサギの「糞」の話●●●

奄美に住んでいる人でアマミノクロウサギという生き物を知らない人は、ほとんどいないでしょう。ではその生態についてはどうでしょう？・・・夜行性、子供用に巣穴を掘って子育てをする・・・などが一般的に知られているかもしれませんが。でもこの生き物、まだまだわかっていないことがたくさんあります。

そして現在、奄美野生生物保護センターではアマミノクロウサギ（以下「クロウサギ」と記述）について、野外調査をおこなっています。今回は、クロウサギの重要な情報源である“糞”についてお話したいと思います。

みなさんはクロウサギの糞を見たことがあるでしょうか？茶色っぽい1 cm くらいの丸くてコロコロした粒状をしています。その粒状の糞を一度に数十個排泄します（糞粒がまとまったものを「糞塊」と呼びます）。植物食なので糞は繊維の塊。においは臭くありません。



こんなにたくさんの糞があるところも！

ではどんなところで糞をしているのでしょうか？クロウサギは開けたところに糞をする習性があります。山の中では尾根上や沢沿いなどでよく排泄し、人がつくった林道も利用しています。開けたところ＝見通しの良いところで糞するのは「（無防備な状態のとき）天敵であるハブから身を守るため」なのかもしれません。

夜行性で森林に生息しているため、昼間は滅多に姿をみることができない動物です。ですが、そのようなクロウサギが残す“痕跡”が手がかりとなり、それを調べることによって、さまざまなことがわかってくるのです。

●どれくらいの数のクロウサギが生息しているかわかる！？●

おもに冬季、奄美各地の沢沿いの糞の数を調べています。沢を歩きながら糞を見つけ、その数を記録していく方法です。そして、どの地域にどれくらいの数のクロウサギがいるのかを推定できるようにデータを集めます。

2000年初頭の奄美大島には約3500個体のクロウサギが生息していると考えられています（森林総合研究所調査）。



アマミノクロウサギ



川の中の石の上にあったクロウサギの糞塊

●幼獣（こども）の糞からわかってきたこと●

クロウサギは飼育下では春秋の2回繁殖するという記録があります（平川動物園,1991）。でも自然下での繁殖期ははっきりとわかっていません。そこで、幼獣の糞が出る時期がわかれば、繁殖期の繁もわかってくるのではないか！？と現在、糞が多い林道で幼獣の糞が出現する時期と糞の大きさを調べています。

幼獣の糞の大きさはどれくらい！？

これまで確認された最小サイズは、糞粒の長径が6mm！ 平均的な大きさは12～13mmくらいなのでこれの約半分の大きさです。一番大きな糞で18mm！ 見ただ目でどれくらい差があるのか、右の写真をご覧ください。 →→→



幼獣の糞はいつ頃でてくるのか！？

1月をピークに12～2月に多く出現しています。そして、確認している数は少ないですが、その他の時期にも幼獣の糞は見られています。

これらの結果から考えられることは、クロウサギの繁殖期は、秋～冬（10～12月）にかけてピークがあり、あとはダラダラと年中続いているのかもしれないということです。

●糞つながりでちょっと別の話題●

クロウサギの糞の調査で林道を歩いていると、ときどきイヌもしくはネコの糞が落ちています。それを回収して内容物を見てみると、クロウサギやケナガネズミなどの希少な生物の毛や骨が出てくることがあります。山に捨てられたイヌやネコ（ペットや猟犬など）が野生化し、捕食しているのです。野生化してしまったイヌやネコを捕まえることは容易ではありません。奄美の生き物たちのためにも、ペットや猟犬は最後まで責任を持って飼いましょう。



イヌの糞から出てきたクロウサギの骨や歯

今回は糞だらけのお話になってしまいましたが、生き物が残す「痕跡」からわかることも多いということが伝わりましたでしょうか。

もしどこかでクロウサギの糞を見かけたら、「この辺りにクロウサギがいるのか」などと少しでも関心を持っていただけるとうれしいです。

では、またの機会に新たな生き物情報を発信できたらと思います。

（アクティブレンジャー 永井 弓子）

○ 奄美大島情報（寄せられた情報の一部です）



日 時:2006,9,7 12:00
種 名:オットンガエル
発見場所:非公開
状 況:幼生
目 撃 者: (迫田)

日 時:2006,9,21 11:40
種 名:エリマキシギ
発見場所:龍郷町水田
状 況:採餌していた。
目 撃 者: (永井)

日 時:2006,9,21 16:10
種 名:ツメナガセキレイ
発見場所:笠利町大瀬
状 況:川で水浴びしていた
目 撃 者: (永井)

日 時:2006,9,5 13:35
種 名:オオハシリグモ
発見場所:大和村
状 況:水辺にいた
目 撃 者: (吾味)

日 時:2006,9,12 18:00
種 名:セイタカシギ
発見場所:センター前の池
状 況:餌をとっていた。
目 撃 者: (水田)

日 時:2006,9,5 11:00
種 名:アマミタカチホ
発見場所:大和村
状 況:とぐろをまいてた
目 撃 者: (栗山)

日 時:2006,9,19 18:14
種 名:ヤツガシラ
発見場所:大和村
状 況:林縁の木に止まっていた
目 撃 者: (永井)

日 時:2006,9,27 14:00
種 名:チゴハヤブサ
発見場所:龍郷
状 況:木に止まった
目 撃 者: (迫田)

日 時:2006,9,25 12:25
種 名:ヤエヤマセンニンソウ
発見場所:大和村
状 況:花がさいてた
目 撃 者: (山室)

日 時:2006,9,28 11:00
種 名:ツマムラサキマダラ
発見場所:湯湾岳
状 況:ヌマダイゴンに止まっていた
目 撃 者: (水田)

日 時:2006,9,27 9:20
種 名:オオバボンテンカ
発見場所:大和村
状 況:林道脇に咲いてた
目 撃 者: (水田)

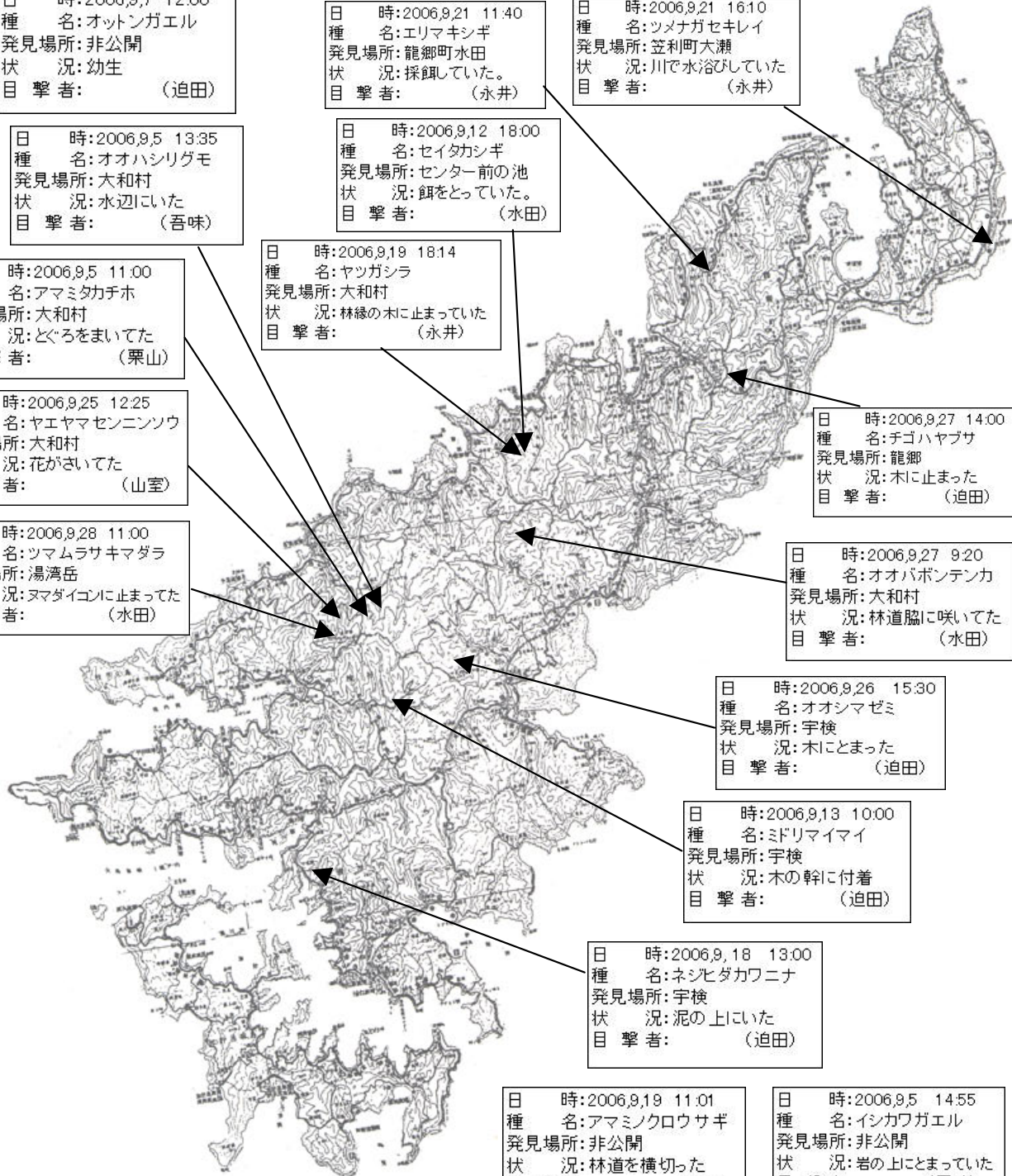
日 時:2006,9,26 15:30
種 名:オオシマゼミ
発見場所:宇検
状 況:木にとまった
目 撃 者: (迫田)

日 時:2006,9,13 10:00
種 名:ミドリマイマイ
発見場所:宇検
状 況:木の幹に付着
目 撃 者: (迫田)

日 時:2006,9,18 13:00
種 名:ネジヒダカワニナ
発見場所:宇検
状 況:泥の上にいる
目 撃 者: (迫田)

日 時:2006,9,19 11:01
種 名:アマミノクロウサギ
発見場所:非公開
状 況:林道を横切った
目 撃 者: (永井)

日 時:2006,9,5 14:55
種 名:イシカワガエル
発見場所:非公開
状 況:岩の上にとまっていた
目 撃 者: (吾味)



1 : 250,000

みられる野生生物

※参考文献：山溪ハンディ図鑑：レッドデータブック

「クマドリヤマタカマイマイ」 柄眼目(マイマイ目)日本固有種

ニッポンマイマイ科(ナンバンマイマイ科)

奄美大島南部に分布する。貝殻は中型(殻径約23mm)で、螺塔は高く、周縁はやや角ばり。幅広い赤褐色の色帯を持つ。主に海岸に近い林の樹上に生息する。沖縄島北部から報告されているものは別種。



「アミミハナサキガエル」 カエル目アカガエル科

奄美大島と徳之島に分布するハナサキガエル。胴は長く、顔はやや悪党面。現在はレッドリスト絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

* 大きさ：オスは56～70cm, メスは68～101cm。

* 体の色：体色は変化に富み深緑から茶褐色、またはそれらの色彩のまだら模様などさまざま。

* すみか：山地の溪流や付近の森林内。徳之島では平野でも見られる。

* 鳴き声：ピ・ピ・ピヨ・ピーヨと小鳥のように澄んだ声で不規則に鳴く。



「アミノクロウサギ」 ウサギ目 ウサギ科

奄美大島と徳之島の2島にのみ分布する固有種である。特異で原始的な形質を有すること、分布域がきわめて限定されていることなどから学術的にも重要視されている。

* 形態：背面が焦茶色、下面は淡い茶色を帯びた暗灰色の体色をしている。体重は1,300～2,700g、頭胴長418～510mm、尾長11～35mm、後足長85～92mm、耳長4～45mm。目と耳介が小さく四肢が短い。爪は強大で穴掘りに適している。頭胴長はノウサギと同等であるが、耳介と四肢は約半分である。



渡辺さん撮影

「ヤエヤマセンニンソウ」

低地～山地の林縁に生えるつる性の常緑草本。葉は3出複葉、つる性の葉柄とともに長さ15～20cm。小葉はやや膜質で長さ5～10cm。鋭頭、基部は円形。葉柄基部の托葉は互いに合着して茎を包み、径1～2cmの楕形となる。花弁状のがく片は4枚、線形～披針形、長さ約3cm、全開または反転し、内面は紫色で無毛、外面には白い細毛がある。

分布：奄美大島以南



山室さん撮影

「オオバボンテンカ」

低地～山地の日当たりのよい路傍に生える低木状の多年生草本。茎は分枝して高さ60～200cmに達する。葉身は長さ3～9cm。花は葉腋に1個または数個つき、径約2cm、花弁は淡紅色で中央部が紫色を帯びる。果実は径約8mm、表面は多くの星状毛とかぎ状毛があり、かぎ状毛の先端には逆向きの小刺があり、物に付着して運ばれる。ボンテンカは九州南部以南に分布し、葉は深く3～5裂して裂片は幅狭く、表面に暗緑色の雲紋があるので区別がつく。

分布：九州南部以南



後 記

秋は地区の運動会や豊年祭など行事が多く、忙しくもありますが楽しく過ごされていることと思います。

平成14年からこれまで、センター職員の協力を得て奄美の風だよりを作成してきましたが、私が担当するのは秋7号が最後になりました。大変お世話になりました。有り難うございました。

(永野)

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

☐ 〒894-3192

鹿児島県大島郡大和村大和浜100

大和村役場 企画財政課

TEL：0997-57-2111

☐ （連絡・書類等送付先）

〒894-3104

鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551

奄美野生生物保護センター内

TEL：0997-55-8620

FAX：0997-55-8621

